

親子が地域資源を活用し、大切にするために

私たちが目指す関のまちづくりの宣言文

私たちの目指す姿は、「関市の資源が子育て家庭にひらかれて、発信活用されている」という関市です。

そのために、「関に住む、子どもを持つ家庭が関の川の遊び方を知らない」
という課題に取り組むことにしました。

課題の原因は「遊べる場所を知らない、親が自然の遊び方を知らない、親子が川に親しめるプログラムがない」ですが、今回は特に「親子が川に親しめるプログラムがない」に対して取り組みます。

これを解決するために、行政、企業、市民活動などの他組織の活動を踏まえ、
私たちは「チームに川の遊び方を知る達人がいるという強みを生かし「鶺鴒船に乗って川で遊ぼう」事業をすることで、関市の課題解決にもっとも貢献することができると考えています。

だから私たちは「鶺鴒船に乗って川で遊ぼう」をすることで、
「関市の資源が子育て家庭にひらかれて、発信活用されている」という関市を
実現します。

I 取り組んだ課題

関に住む、子どもを持つ家族が関の川の遊び方を知らない

また、議論の中で、「鵜飼船が昼に活用されていない」という課題も出てきたため、この両者の課題について取り組むこととなりました。

【その理由と根拠】

このテーマにおける課題の原因は何か、担当課を交えながら、部会メンバーで議論しました。

1. 遊べる場所を知らない

関市には、板取川、長良川、津保川等泳ぐことができる川がありますが、実際にどこで泳いでいいのか、どこで泳ぐと危険なのかが、知られていません。キャンプ場以外での遊泳できる場所を知らないことが、子ども連れの親が川で遊ばない一つの要因と考えます。

2. 親が自然の遊び方を知らない

話を聞くと、30代以下の人たちは、子どもの頃、関の川で遊んだ思い出が少ないようです。60代以上の方は、川で泳ぎ、魚を釣り、網で生き物を取るなど、子どもの頃、日常から川に親しんでいたようです。今、親世代である30代、40代が川で遊んだ経験が少ないことが、子どもに影響していると考えます。

3. 親子が川に親しめるプログラムがない

色々と調べてみると、今、親子が川で遊ぶイベントが多くないことがわかりました。地域ごとに、川の自然環境の観察会等は実施されていますが、川を楽しむ、川で遊ぶといったプログラムはあまり多くありません。

今回は、「親子が川に親しめるプログラムがない」に取り組むことにしました。

II 取り組んだ活動

「鵜飼船に乗って川で遊ぼうの実施」

小瀬の河原で、親子で鵜飼船に乗って川で遊ぼうのイベントを実施しました。昼間の鵜飼観覧船に乗船し、船から川を楽しみ、その後、網で川魚を獲り、足立鵜匠から鵜と鵜飼の話の聞きました。

日時：平成 30 年 6 月 16 日（土）9 時から 12 時

集合場所：鵜飼乗船場

参加費：1,500 円（箱メガネとタモ付）

参加者：16 組

親子で川を楽しめる関市へ

鵜飼船に乗って川で遊ぼう！

6/16 Sat 9:00 ~ 12:00

※予定日 23 日（土）
以上の場合は、前日に開催します。

引当の子童で川魚を採り、地元の人から川を楽しむ姿を学ぶ企画です。

内容
①鵜飼の遊覧船に乗って魚を採ろう
②川原でウルルを獲ろう

集合場所 舟屋前 関市小瀬76-3
定員 16 組（受付順）
参加費 大人1人1,500円
持ち物 濡れても良い靴、帽子など
古対策グッズ
申込期間 6/3（日）～ 6/13（水）

申込先
関市市民活動センター
関市千代町2丁目18番地1
☎0575-24-7772

小瀬鵜飼屋形船 昼に活用

川遊びで試験的提供 関市民会議

小瀬鵜飼の屋形船に乗って川遊びや川魚の観察を楽しむイベントが16日、関市の長良川であった。

市民の視点から市に政策提案する一市まごっこの市民会議が主催。昼間は使われていない屋形船を活用して川遊びの機会を提供しようと、市内の親子を対象に試験的に行った。

16組、25人が屋形船に乗って、親子連れら＝関市地原で屋形船を下り、河原で網を持って魚を採る子どもたち＝関市小瀬の長良川で。

「反応良く今後も検討」

提案を受ける窓口となる、同市民協議会副会長補佐の河合康裕さんは「良い反応が得られた。今日のイベントを参考にしながら、昼間の船の活用を積極的に検討していきたい」と話した。

（鈴木太地）

（左）事業のチラシ、（右）中日新聞掲載記事

「関のいいところ再発見！チーム」

Ⅲ 実施結果

参加者から大変好評を得ることができました。
アンケート結果から、満足度が良好だった。

満足度 **100%**でした。

親…大変満足している **9割**、満足している **1割**
子…すごく楽しかった **9割以上**、まあ楽しかった **1割未満**

楽しかったこと

親…「船に乗る（**37%**）、魚を獲る（**21%**）、箱メガネで魚を見る（**17%**）、達人の話を聞く（**13%**）」

- ・船に乗れた。川魚獲りができた。またやりたい。との声を聴くことでできた。
- ・魚はあまり獲れなかったが、足立鶴匠がたくさん獲ってくれた。

第6期関市まちづくり市民会議（関のいいところ再発見！チーム）収支決算書

	区分	科目	単価	数	計	
収 入	参加費	1500×13組	1,500	13	19,500	
	収入合計				19,500	
	区分	科目	単価	数	計	備考
支 出	レクリエーション保険	保険対象者31名	32.25	31	1,000	保険フジヨシ
	備品	レク用魚とり網	1,728	1	1,728	セリア
	備品	レク用ダイビング&スノーケル	5,322	1	5,322	楽天
	備品	レク用ダイビング&スノーケル	4,822	1	4,822	楽天
	関遊船	観覧船貸出料	50,000	1	50,000	
	支出合計				62,872	

△ 43,372

IV その成果と見えてきた課題

《成果》

- ① アンケート結果から、全ての人が「満足」と回答していただきました。特に、昼間に船に乗る体験が親と子ともに感動した人が多かったです。
現在、昼間は使われていない鵜飼観覧船ですが、活用できる可能性は大いにあることがわかりました。

《課題》

①船頭さんと船を確保すること

今回関遊船さんを通じて、船と船頭さんをお願いしました。昼間の船の貸し出しはこれまでなかったため、値段等の基準がありません。また、船頭さんとも、どう船を動かしてもらうのか打合せすることも必要となります。今後の活用にあたっては、値段や時間等の基準を作ってもらうことが借りやすさにつながると考えます。

② 安全対策、危険箇所の説明

今回のイベント中で、川の中に入ってうるをとりましたが、これ以上進んだら危険な箇所には、船頭さんが、自主的に立っていてくれ、呼びかけをしていただけました。川遊びをする上で、その川の深くなる箇所や流れが早い場所等を熟知する必要を感じました。

V 提案と提案理由

提案 1	昼間の観覧船を活用したツアーの実施や、様々な人や団体が昼間の鵜飼観覧船を活用できる仕組みを作ってください
提案する課	観光交流課
概要	<p>弥勒寺官衙遺跡のガイドと観覧船を合わせたツアーや、長良川の鮎を獲る様子を案内し川を楽しむツアー等の観覧船に乗ることをセットにした小瀬周辺地域を楽しむツアーを実施してください。</p> <p>また、これらのツアー等の実施は、関遊船のみでは、マンパワーが足りません。より多くの人や団体が、鵜飼観覧船を活用しやすくする仕組みを作ることで、観覧船での活動の実施を担う団体がたくさん現れると考えます。具体的には、昼間の鵜飼観覧船活用する場合の、金額や時間等明確なメニューやルールをつくることや、船の費用の補助を検討してください。</p>

「関のいいところ再発見！チーム」

提案2	子どもたちの定期的な川遊びプログラムを実施してください
提案する課	観光交流課
概要	<p>関の魅力的な資源として、川に親しみ育つことが当たり前になるために、定期的に川遊びプログラムを実施してください。</p> <p>また、子どもが川に親しむことが当たり前になるためには、親も川を親しむことが必要です。そのために、川遊びができる親を育てるプログラムや、川の危険性を学ぶプログラムの実施してください。</p> <p>この企画の運営には、川の達人を集まった団体ができ、実施を担うことが理想です。そのために、当初は、市民活動助成金の行政提案メニューである「いきいき」助成金にて、公募するところから始めてもらうことが良いと考えます。</p>

提案の理由	<ol style="list-style-type: none">1. 観覧船の活用をすることで、小瀬鵜飼の観光客の増加にも繋げたいと考えます。2. 長良川などの関の資源を大切にし、その資源で子どもたちが親しみながら育ってもらいたいと思います。川で遊ばなくなった大きな理由は、危険性があります。そのために、川で安全な行動がとれる大人を育成する必要があります。
-------	---

VI 今後の展開

長良川は世界農業遺産に認定されたが、関市民はその恩恵を感じられていません。川で遊ぶ親子を増やし、合わせて関の地域資源の活用を進めたいと考えます。

- ・長良川の天然鮎の美味しさを若い人達にも知ってもらう
- ・また、小瀬鵜飼へのアクセスの問題があります。少なくとも小瀬鵜飼開始と終了に間に合うバスが必要だと考えます。